

第 5 回奈良のシカ保護管理計画検討委員会

日時 平成 28 年 12 月 2 日 (金)

10:00 ~ 12:00

場所 奈良春日野国際フォーラム別館 会議室 5

議 事 要 旨

1. 開会

2. 報告事項

「鹿苑」の整備について

3. 議事

(1) 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画策定スケジュールについて

(2) 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画案の検討について

(3) その他

4. 閉会

【配布資料】

資料 1-1 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画策定のための
ワーキンググループの設置について

資料 1-2 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画策定経過

資料 1-3 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画策定スケジュール

資料 2-1 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画案

資料 2-2 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画案 概要版

参考資料 1 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画策定手続きについて

参考資料 2 人身事故減少に向けた取組について

● 出席者名簿

	氏 名	役 職 名	
委員長	村上 興正	元京都大学理学研究科 講師	
委 員 (五十音順)	朝廣 佳子	鹿サポーターズクラブ 会長	
	高柳 敦	京都大学 講師	
	立澤 史郎	北海道大学大学院 助教	
	玉手 英利	山形大学 教授	
	鳥居 春己	奈良教育大学 特任教授	
	松井 淳	奈良教育大学 教授	
	吉岡 豊	一般財団法人奈良の鹿愛護会 事務局長	
	渡邊 伸一	奈良教育大学 教授	
オブザーバー	江戸 謙顕	文化庁文化財部記念物課 文化財調査官	欠席
	當島 一平	春日大社管理部管理課 課長補佐	代理
県関係課	奈良県教育委員会事務局文化財保存課		
	奈良県農林部農業水産振興課		
	奈良県農林部森林整備課		
	奈良公園事務所		
市関係課	奈良市観光経済部農林課		
	奈良市教育委員会事務局教育総務部文化財課		
関係団体	奈良公園のシカ相談室		
	鹿害阻止農家組合		
事務局	奈良県県土マネジメント部まちづくり推進局奈良公園室		
	奈良市観光経済部観光振興課		

- 議事要旨

- 1. 報告事項

- (1) 鹿苑の整備について

- 鹿苑の整備案について、報告を行った。施設の老朽化、救護等を野外で対応する状況、資料の保管スペース等の劣化、保護収容環境状況、シカのし尿等による下流の水質悪化等の課題が生じており、鹿苑外周柵の建て替え、管理棟、診療棟、資料庫、シカ糞処理場、餌場、学習スペース、柵内水路の改修等の整備を行うことについて説明を行った。

- 【主な意見・質問】

- ・鹿苑の糞の堆肥化について、農地等での使用などサイクルを考えないといけないが試算はあるのか。(松井)
 - 現在、農家への配布や公園内植栽の施肥に使用している。現在の収容量と変わらないので、十分対応可能である。(吉岡)
- ・鹿苑には、奈良のシカの博物館的な機能(展示、資料保管、研究室、研修室等)が必要だと思う。また、シカの生態を調べる研究者の常駐が必要ではないか。(渡辺、松井)
- ・シカの育成だけでなく、公園利用者やシカに関する研究者の育成も考える必要がある。鹿苑の通路の展示は評価が高いため、施設の整備だけではなく、今までの機能をなくさないように、コンテンツを活かすようなソフトを考えるようにした方が良い。また、歴史資料についても散逸しないように統一的に管理をした方が良い。(立澤)
 - 歴史的資料のみでなく、頭骨や遺伝子などのサンプルを含めた資料管理についての検討は必要である。また、ビジターセンター的な機能は必要。展示を含めて、今後の委員会での検討課題としたい。(村上)
 - バスターミナルの展示とも合わせて、展示計画を検討したい。(事務局)
- ・鹿苑外の野外で、シカが出産できるような人が入らずに茂みがある環境を整備すれば、出産期の飼育数が減るのではないか。(鳥居)
 - 仔ジカを守るために母ジカの気が荒くなるため、春から秋は仔ジカがらみの人身事故が増える。(事務局)
 - この問題については、人身事故WGで総合的に議論する。シカとの接し方についても検討したい。(村上)

2. 議事

(1) 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画策定スケジュールについて

- ▶ 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画（以下、特定計画）を策定することとなった経緯と平成 29 年 4 月発効を目指したスケジュールの説明を行い、了承を得た。

【主な意見・質問】

- ・パブリックコメント等を受けた内容の修正及び実施計画の検討のため、2 月ごろに第 4 回特定計画WGを開く必要がある。(村上)
 - 了解した。(事務局)
- ・修正案を全体構想WG、検討委員会にかける必要があるのではないか。(鳥居)
 - 臨時で開く可能性があるが、通常は開かない。全体 WG で予算、日程等を踏まえ検討し、決定したい。事後報告で済む可能性もある。大変な修正等があれば開催する。(村上)
- ・実施計画は毎年策定することとなっているが、次年度はどうするのか。(鳥居)
 - 実施計画は、計画実施の前年度に策定する。捕獲は、被害が多いところで実施する。(村上)

(2) 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画の検討について

- ▶ 資料 2-2 概要版と計画案を用いて内容を説明した。計画の期間は平成 29 年 4 月 1 日から平成 34 年 3 月 31 日までの 5 ヶ年となり、毎年度、具体的な実施計画を作成することを説明し、計画案について概ね了承を得た。
- ▶ 指摘を受けた文章、図面等については修正を行い、委員に確認を受けた上でパブリックコメント等を実施することとした。

【主な意見・質問】

- ・特定計画の名称が「奈良市ニホンジカ」であることについて、「奈良市」だと旧都祁村や旧月ヶ瀬村（県の特定計画に入っている地域）が含まれていると誤解を受けるため、旧奈良市域であることが分かるようにすべき。(渡辺)
 - 関係機関である奈良県農林部、文化庁との協議の上決定する。(村上)
- ・第二種特定鳥獣管理計画が必要なのか、経緯及び理由、位置付けを示す必要がある。(鳥居)
 - 第二種特定計画であることの理由とともに、保護地区においては保護計画を策定することを「1. 計画の背景及び目的」に明記すること。(村上)
 - 本委員会は元々、「奈良のシカ」の保護管理計画作成のための委員会で、今回の特定計画はその中の管理計画であるということを明記するようにすれば誤解はないと思う。(事務局)
- ・p. 20 図 7-2-8 について、捕獲頭数がゼロのメッシュは明記する必要がある。(鳥居)
 - 了解した。(事務局)
- ・p. 22～28 の(2)生息状況 2)奈良のシカの生態的特性の記述について、各種情報が何のために必要であるのか明記する必要がある。また、奈良のシカの生態的特性のデータがD地区のシカのデータではなく、奈良公園及びその周辺のものであることが一般市民にとって解りにくく、誤解を招くおそれがあるため、明示する必要がある。(高柳)
- ・少子高齢集団である点や、シバに強く依存する点などは奈良のシカ（奈良公園及びその周辺に生

息するもの)の特徴であるが、今後奈良のシカ個体群を安定的に維持するためには、それらの特性や環境収容力等について検討しなければならない。(村上)

- 秋以降のドングリの生産量についてはわかっていない。また、ドングリを巡ってイノシシとの競合があるため、錯誤捕獲に注意しながらイノシシへの対策も検討する必要がある。(鳥居)
 - 奈良県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画について確認し、奈良公園の取扱について確認しておくこと。(村上)
- 奈良のシカを含む分集団の遺伝的特性について、補足説明をすると、現在の技術ではA、B地区間のような数km単位での線引きは難しい。一方、この地域のシカはダイナミックな移動をしているわけではないので、奈良市、天理市間のような数10km単位であれば違いは見えてくるであろう。また、今後D地区での管理方針が変わり、管理が進んでいくと、遺伝的特性の結果が変わってくるのが予測できるので、集団構造について5~10年単位で同様の調査を行い、管理実施前後の比較を行うことが重要である。(玉手)
 - D地区だけでなく、A、B地区についてもこれらのモニタリングが必要で、別途総合的な計画を作ることが重要である。(村上)

以上、委員の意見順不同